

米国金融政策（2026年7月FOMC）

5会合連続で政策金利の据え置きを決定

2026年7月30日

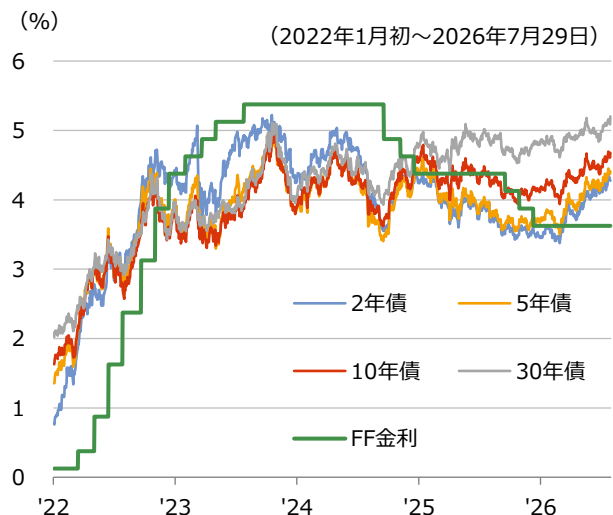
FRBの出遅れ懸念で長期金利はむしろ上昇

FRB（米国連邦準備制度理事会）は7月28日～29日（現地）にFOMC（米国連邦公開市場委員会）を開催し、政策金利であるFF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標レンジを3.50～3.75%で据え置くことを決定しました。政策決定に際して、3名が0.25%ptの利上げを求めて反対しました。

今回の声明文で景気は「堅調」、失業率は「ほとんど変化なし」、インフレは「高止まったまま」との判断に変化はなかったほか、労働生産性ならびに設備投資は「強い」との評価も維持されました。声明文は事実のみを伝えるに留まり、先行きの金融政策に関する文言は前回に引き続きありません。この点について、ウォーシュFRB議長は市場の動きをそのまま受け入れるわけではないとしつつも、「独自の見通しや解説を提供することで市場の目を曇らせたくない」と指摘しました。

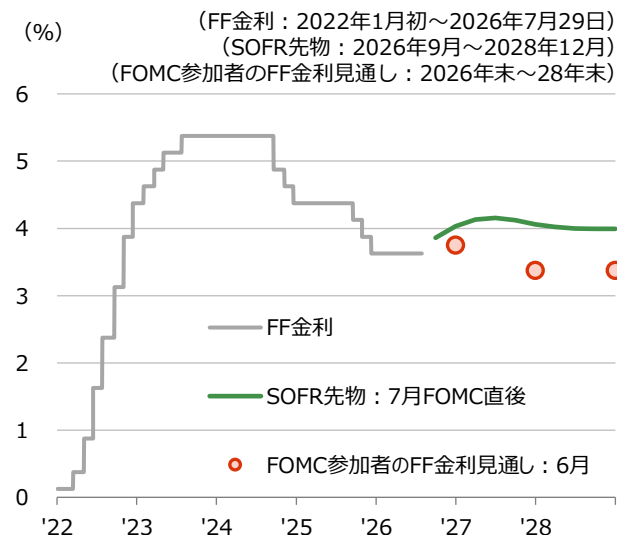
市場では今会合での利上げが4割前後織り込まれていたことから、政策発表直後、短期金利の低下と米ドル安が進みました。3名の反対票が投じられたものの、ウォーシュ議長から特段のタカ派的な見解が聞かれることはありませんでした。市場ではFRBのビハインド・ザ・カーブ懸念から、長期や超長期金利が期待インフレ主導でむしろ上昇し、株安にもつながりました。議長は「注意深い考察の時期」としており、インフレが広範化しつつあるのか、インフレ期待が2%付近で安定的であるのか、を引き続き評価していくことになります。なお、市場では9月FOMCでの利上げを6割強織り込んでいます。

FF金利と米国債利回り



※FF金利は決定日ベースで誘導目標レンジの中心値
(出所) ブルームバーク

FF金利の実績と見通し



※FF金利は決定日ベースで誘導目標レンジの中心値
SOFRは担保付翌日物調達金利 (出所) FRB、ブルームバーク

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management